

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

確かな学力と意欲・志、さらには、高いコミュニケーション能力に裏打ちされた豊かな「人間力」を持ち、社会に貢献できる生徒を育成する学校。地域に根付いた地域に愛される学校をめざす。

- それぞれの学力向上（「わかる、楽しい、規律ある授業」の展開、基礎的・基本的学力の定着、進学に向けた学力の向上）
- コミュニケーション能力の向上（ピア・メディエーションの取組など）
- 地域連携の推進

2 中期的目標

1 学力の向上

- 本校生徒にとって『わかる授業』『楽しい授業』『規律ある授業』が行えるように、教員の授業力を向上させる。
 - 本校勤務年数が少ない教員へのオン・ザ・ジョブ・トレーニング(OJT)が盛んに行われるような職場環境づくりを行う。
 - 教員相互の授業見学や研究授業を積極的に行う。
 - ICTを活用し、授業改善と業務軽減を行う。
 ※ 教員が年間5回以上の授業見学を行い、各教科が毎年1回以上の研究授業を実施するようになる。
 ※ 生徒による学校教育自己診断において「授業が分かりやすい」という項目に対する肯定的な割合を増やす。(H25, 61%)
- 生徒の学習習慣を確立させることを通して、学習意欲を向上させる。
 - 生徒が放課後に校内で勉強できる場（自習室・図書室）を整備し、教員が生徒の個別指導を行える体制をつくる。
 - 日々の放課後に自習室・図書館を利用して学習する生徒がいる状態にする。
 - 生徒の遅刻を減らす。
 - 生徒の読書習慣を確立する。
- 生徒一人一人の進路目標に合った学力（それぞれの学力）を育成する。
 - 義務教育段階の学力修得を目的とした茨田検定（振返り学習）・「一般教養講座」や、習熟度別授業、補習などの内容を充実させる。
 - 発展・応用的学力の習得をめざす授業内容の充実と、授業以外の講習などを積極的に実施する。
 - 生徒の進路に応じた講座を充実させ、進路希望を実現させる。
 ※ 生徒の基礎学力が向上することで、1年生・2年生の進級率を上げる。(H25年度は1年85%、2年80%)
 ※ 進路決定未定者の割合を下げる。(H25年度は19.6%)
 ※ 就職試験一次合格者の合格率を上げる。(H25年度は61.5%)

2 より良い人間関係づくりができる学校文化の創出

- 生徒のコミュニケーション能力向上を図ることにより、より良い人間関係づくりができる学校文化を創出する。
 - 教員のコミュニケーション指導力を充実する。
 - 生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。
 - ピア・メディエーション（以下「PM」）クラブとコミュニケーションコースによる協同プロジェクトを立ち上げ、PM教育を牽引する。
 - 教職員PM研修、PMステップアップ研修等を実施し、校内外におけるPMの理解促進及び普及を図る。
 - 『コミュニケーション総合』の学校設定科目「コミュニケーション総合」の内容をより充実させ、コミュニケーション能力の更なる向上をめざす。
 - English Speech Festival, English Day Camp を継続実施し、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。
 - 進路指導を通してコミュニケーション能力の向上を図る。
 - 活気ある学校づくりの一つとして部活動の活性化をめざす。
 ※ 作成した「PM」のテキストを、校内で活用するとともに、そのノウハウを他校にも普及させる。
 ※ 志学や道徳教育との関連性を重視した独自のコミュニケーション教育を構築する。
 ※ 学校教育自己診断にコミュニケーション能力に関する項目を入れ、80%以上の生徒がコミュニケーション能力の向上を実感できる学校にする。

3 地域連携の推進

- 地域連携を通じた生徒の成長
 - 地域の活動に参加する。
 - ※ 地域の活動への参加回数を増加させる。(H25年度12回)
 - 地域の人々を学校に招聘する。
 - ※ 体育祭や文化祭、「いこいの広場」「地域交流エリヤ」等を利用して地域の人々を学校に招き、交流を持つ。
 - ※ 中学の部活動を招いて実施する「茨田カップ」の回数を増加させる。(H25年度2回)
- 広報活動の充実
 - HPの充実
 - ※HPを1週間に1回の頻度で更新する。(現在2週間に1回程度)
 - 茨田ニュースの発行を継続する。
 - ウ 学校説明会の充実
 - ※学校説明会等における来校者人数を1.2倍にする。(H25年度→837人)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの提言・意見のまとめ
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生になってから学力がついたと答えた生徒が69%（昨年度68%）、授業で生徒が発表する機会があると答えた生徒は55%（昨年度52%）と増えている。その反面、授業が分かりやすいと答えた生徒が58%（昨年度61%）と減少し、授業形態の変化に生徒が十分順応できていない様子が伺える。また日常的に放課後の学校や家庭で勉強している生徒は35%と低い数字であった。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活についての先生の指導は納得できると答えた生徒が65%（昨年度69%）。一方、学校の生徒指導の方針に共感できると答えた保護者が80%（昨年度79%）で、頭髪・服装指導については78%（昨年度70%）、遅刻指導では88%（昨年度80%）、いじめや問題事象に対する指導については79%（昨年度78%）の保護者が適切であるとしており、本校の生徒指導が保護から受け入れられていると判断できる。 担任は相談や悩みに応じてくれると答えた生徒73%（昨年度72%）、保護者の相談に適切に応じてくれる89%（昨年度84%）等から生徒や保護者からの相談に対しては適切な対応ができていないと判断できる。生徒への声かけや、生徒、保護者に対する傾聴を一層徹底したい。 <p>【HR、特別活動等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育祭が楽しく行えるように工夫されていると答えた生徒73%（昨年度78%）、文化祭66%（昨年度72%）。またクラス活動が活発であると答えた生徒は71%（昨年度76%）である。本校では教育活動のあらゆる場面を通じた生徒のコミュニケーション能力向上に取り組んでおり、HR、特別活動について肯定的意見の割合が減じているので更なる活性化をめざす必要がある。 部活動に積極的に取り組んでいる生徒の割合は39%（昨年度38%）で低い。今年度も体験入部期間を長くしたが、来年度も更に新たな取組を計画する必要がある。 <p>【コミュニケーション能力向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校全体で取り組んでいる授業の開始・終了時の声を出しての挨拶については、できていると答えた生徒が62%（昨年度58%、一昨年度48%）、職員室等への入室マナーを守っていると答えた生徒は80%（昨年度79%、一昨年度66%）で取組の成果がみられる。 <p>【全体として】</p> <ul style="list-style-type: none"> 茨田高校に入学してよかったと思う生徒が73%（昨年度76%）、保護者が87%（昨年度84%）で、高い数字がでているが、継続した努力を行う。 	<p>第1回（6月19日）</p> <p>テーマ1 茨田高校生が一層良くなるために学校は何をすべきか</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーション能力向上のために茨田高校は茨田高校のやり方で生徒を伸ばせばいい。 ○図書室の利用率を上げる方策を考えてほしい。 ○校内を見て、学校をきれいにする習慣が続いていると感じた。継続してほしい。 ○遅刻の数をもう少し減らせないか。 ○進路について先生と気軽に話し合える機会が今以上にほしい。 <p>テーマ2 茨田高校が地域と連携してできる取組にはどんなものがあるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ○先生、生徒が積極的に地域で活動する。 ○区主催の消防訓練に高校の生徒が参加してほしい。特にクラブの生徒に参加してほしい。 ○中学校とコラボして区取組に参加する。元気ある茨田高校を発信してみようか。 <p>第2回（11月5日）</p> <p>ピア・メディエーション（PM）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○PMが生徒、教員のバックボーンとなり、校風となってほしい。また、PMを他の多くの高校に広めることができればよりよいと考える。 ○PMの授業や取組を継続できる教員の体制作りを考える必要がある。 ○「コミュニケーション総合」の授業も高校の先生でも担当できるようになってほしい。 <p>ユニバーサルデザイン（UD）教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○茨田高校のオリジナル性が出てくるような取組を進めてほしい。 <p>地域連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○茨田高校は地域連携を広げているが、地域連携においても担当教員の引継ぎが大切である。その他 ○英検に参加する生徒は最初は少人数だったが、今年度は1年生全員が受検をした。英検の資格は生徒にとって有利である。これからの茨田の方向性として英語に力を入れるのはいいと思う。 <p>第3回（3月6日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーション能力の中でもプレゼン力が高まったことを学外に示すことが必要。 ○コミュニケーションの力を発揮するための情報源として本や新聞を読ませることが大切。 ○ピアメディエーション劇やコミュニケーションHRを鶴見区他の中学に広めてほしい。 ○中退率を下げ、入学すれば卒業まで生徒をサポートしてくれる高校としてアピールする必要あり。 ○外部からの来訪がある場合に備えて教員が名札を付けてほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の向上	(1) 『わかる・楽しい・規律ある授業』を実現するための教員の授業力向上。	(1)	(1)	(1)
	ア 本校勤務年数が少ない教員へのOJTの実施	ア・担当首席を中心に管理職や分掌長等が講師となって、若手育成に当たっている研修組織（青葉会）を、本校勤務年数が少ない教員へも拡大する。 ・本校勤務年数が少ない教員に対して、年度当初に生徒の授業態度を重点的に指導するよう指示する。	ア・拡大した青葉会の研修を年間で16回実施する。 ・授業見学をする教員が、生徒の机上の整理整頓を重点的に指導する。	ア・15/16回 実施（△） ・教室の前壁に授業前の整理整頓を喚起する張紙を掲示し、各教員が指導している。（○）
	イ 教員相互の授業見学や研究授業の実施	イ・授業見学週間を春と秋に1回ずつ設定して、すべての教員が年間5回以上の授業見学を行う。 ・授業見学した教員が「授業見学シート」を必ず記入して授業者に渡すことで、授業内容についての話し合いができる機会をつくる。 ・各教科で経験豊富な教員を中心に、年間に1名が研究授業を実施する。	イ・授業見学シートの提出状況が、昨年度は教員1名平均2.5枚であったものを、今年度は5枚にする。 ・各教科で年間1人以上が研究授業を実施。	イ・授業見学シートは今年度も平均2.5枚であったが授業を観察する観点を明確にするなど質が向上した。（△） ・家庭、体育科以外すべての教科で実施（△）
ウ ICTを活用した授業改善と業務軽減	ウ・生徒による学校教育自己診断の結果を検証して授業力向上へ結びつける方策を確立する。	ウ・生徒による学校教育自己診断において「授業が分かりやすい」という項目に対する肯定的な割合を70%以上にする。（H25, 60%）	ウ・肯定的な回答は58%に留まる。さらなる取組が必要。（△）	
	(2) 生徒の学習習慣確立を通じた学習意欲の向上。	(2)	(2)	(2)
	ア 生徒が放課後に校内で勉強できる場（自習室・図書館）を整備したうえで、教員が生徒を個別指導できる体制をつくる。	ア・1年生の学習習慣定着を目的とした「自習室」を通年で設置し、教務部と学年団教員を中心に生徒の個別指導にあたる。 ・2,3年生を中心として図書室を学習指導の場として活用できるように、開館日を拡大し、教員が運営にかかわる体制をつくる。	ア・昨年度30日であった自習室の開室日数を、100日以上する。 ・図書館の開館日を増やし、運営を担当する教員を増やす。 ・学校教育診断の「日常的に放課後学校で学習したり、家庭で学習している」の項目に肯定的な答えを出す生徒の割合を60%にする。	ア・自習室114日の開室（○） ・図書室の開館日は昨年と変わらず。図書館の常駐教員を3名配置し、放課後はほぼ毎日開館しているので増やす余地がない。（○） ・肯定的な回答35% 今回初めての調査であったが予想よりも低い現状を認識した。（△）
	イ 生徒の遅刻を減らす。	イ・遅刻の回数に応じて、担任、学年主任、首席、教頭、校長による説諭を行う。 ・遅刻の回数に応じて、学年による放課後清掃指導等を行う。	イ・年間遅刻総数を12000人以下に減少させる。（H25, 15057人）	イ・遅刻数昨年度比20%減が目標だが13%減。欠席・早退・中退生徒数の減少もあり、基本的な生活習慣が身につけていない生徒を粘り強く登校するように指導しているため遅刻数が中々減少しない。（△）
	ウ 生徒の読書習慣を確立する。	ウ・計画的に読書活動を行う。	ウ・終礼の時間を利用して読書週間を複数回実施する。 ・次年度からの毎日10分間の読書活動計画を立てる。	ウ・2月に実施済み（○） ・計画立案中（○）
	(3) 生徒個々の進路目標に合った学力を育成する。	(3)	(3)	(3)
	ア 義務教育段階の学力習得を目的とした「茨田検定（振り返り学習）」「一般教養講座」、習熟度別授業、補習などの内容を充実させる。	ア・「茨田検定」について、全学年で年度当初から計画的な問題作成と冊子化に取り組む。 ・今年度1年生で新たに実施した「一般教養講座」を、他学年でも実施する。 ・成績不振者への補習、個別指導を充実させる。	ア・全学年の茨田検定問題を冊子化する ・長期休業期間中にすべての教科で成績不振者補習を実施する。 ・「一般教養講座」をの参加数を昨年度実績の1.5倍にする。 ・1年生、2年生の進級率をそれぞれ90%以上にする。（H25年度は85%と80%）。	ア・2,3年は冊子ができているが1年は未完成。（△） ・成績不振者補習はかなり充実したが、全ての教科で実施するのは日程的に難しい（△） ・昨年度実績と同じ10名程度の参加にとどまっている。（△） ・進級率は1年生89.7%、2年生87.3%であると一歩届かず（△）
	イ 発展・応用的学力の習得をめざす授業内容の充実と、放課後等の講習を積極的に実施する。	イ・本年度2年生が学業成績に基づくクラス編成を実施したことを受けて、成績の推移を分析しながら、各授業で生徒の学力向上をはかる。また、2年段階からの講習を企画、実施する。 ・外部機関の資格試験（漢検・英検・P検（パソコン検定）等）を活用して、生徒の学力向上をはかる。	イ・2年生徒を対象とした講習を通年で実施。 ・外部機関の資格試験合格者の増加。（漢検30名、英検20名、P検10名） （H25, 漢検25名、英検11名、P検4名）	イ・国、数、英、小論文、看護系進学対策、就職対策の講習を通年実施中（○） ・漢検11名 英検163名 P検4名の合格（○）
	ウ 生徒の進路に応じた講座を充実させ、進路希望を実現する。	ウ・平成27年度から3年生で実施される学校設定科教科「基礎教養」の具体的な内容について計画する。	ウ・進路決定未定者の割合を10%以下にする。（H25, 19.6%） ・就職試験一次合格者の合格率を70%以上にする。（H25, 61.5%） ・「基礎教養」のシラバス作成	ウ・進路未決定者は28名、割合は、21.2%（△） ・就職試験1次合格率は、57.7%である。本番面接で緊張し、うまくいかなかった生徒もいたが、2次以降で内定をもらっている。（△） ・完成済み（○）

府立茨田高等学校

2 より良い人間関係づくりができる学校文化の創出	<p>(1)生徒のコミュニケーション能力向上を図ることにより、より良い人間関係づくりができる学校文化を創出する。</p> <p>ア 教員のコミュニケーション指導力を充実する。</p> <p>イ 生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>ウ ピアメディアエーション(以下「PM」)クラブとコミュニケーションコースによる協同プロジェクトを立ち上げPM教育を牽引する。</p> <p>エ 教職員PM研修、PMステップアップ研修等を実施し、校内外におけるPMの理解促進、普及を図る。</p> <p>オ 『コミュニケーションコース』の学校設定科目「コミュニケーション総合」「PMⅠ」「PMⅡ」の内容をより充実させる。</p> <p>カ English Speech Festival, English Day Camp を継続実施し、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>キ 進路指導を通してコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>ク 活気ある学校づくりの一つとして部活動の活性化をめざす。</p>	<p>ア・コミュニケーション委員会とコミュニケーションコース担当者会議を合同し、定例の拡大コミュニケーション委員会として生徒のコミュニケーション能力向上の取組強化対策を立案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員それぞれが、生徒のコミュニケーション能力向上のための取組を行い、その内容と効果を集約して全教員で共有するとともに、特に優れた取組については本人によるプレゼンを行い、全体化することで、教員のコミュニケーション指導力を向上する。 ・PMの技法を応用し、自分を大切に、他者を理解することをベースとした生徒指導を展開する。 <p>イ・校内に「あいさつ通り」を設置し、集会時、授業時でのあいさつ指導とともに全校的な指導を徹底した上で、その効果をアンケートで確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションをテーマとしたホームルーム(「コミュニケーションHR」)を新設し、志学と連携したコミュニケーション教育を充実する。 ・生徒によるプレゼンイベントを実施する。 <p>ウ・PMクラブを活性化するとともに、コミュニケーションコースと連動したPMプレゼンテーションプログラムを開発し、校内外で活用する。</p> <p>エ・「PM」のテキストを活用し、教職員PM研修を校内で実施するとともに、教職員PM講習会を実施し、校外にも普及を図る。</p> <p>オ・「コミュニケーション総合」で落語家などの著名人や大学教授等を招き、充実したコミュニケーション教育を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「PMⅠ」「PMⅡ」の授業内容を整理し、教材及び指導方法を確立、継承する。 ・「PMⅠ」「PMⅡ」履修生徒の中からNPO法人シヴィルプロネット関西によるメディエーター認定試験の合格者を出す。 <p>カ・English Speech Festival の継続実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・English Day Camp の継続実施。 <p>キ・生徒が職場訪問し、職場の人とコミュニケーションを取る機会を増やす。</p> <p>ク・体験入部等年度当初の新入部員獲得に向けた行事の充実。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携を活用した部活動の活性化。 ・文化部の発表の場として、近隣中学や住民を招待したイベント「茨田フェス」の開催。 ・「部活動の日」(毎週金曜日/生徒、教員共に、部活動への参加を促す取組み)のさらなる充実。 	<p>ア・拡大コミュニケーション委員会を年12回以上開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員会議で教員による「コミュニケーション能力向上取組プレゼン」を年2回実施。 ・PMにもとづく教員の生徒指導力向上研修を年1回実施。 <p>イ・25項目のコミュニケーション能力アンケートを年2回実施し、20項目以上での数値向上。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションHRを年3回実施。 ・プレゼンイベントを年1回実施。 <p>ウ・PMプレゼンテーションプログラムを充実し「人権文化交流発表会」や学校説明会などで年3回発表。(平成25年度は人権文化交流発表会で1回発表)</p> <p>エ・教職員PM研修を校内で年1回実施。(アの研修と合わせて校内で年2回実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員PM講習会を年3日実施。 <p>オ・コミュニケーションコース選択生徒アンケートで「コースで学んで話し方や行動が変わった」と答えた生徒の割合を90%以上(平成25年度は90%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「PMⅠ」「PMⅡ」を担当できる教員を養成し、2名以上確保。(平成25年度は1名) ・メディエーター認定証取得者5名以上。(平成25年度は3名) <p>カ・English Speech Festival の継続実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・English Day Camp の継続実施。 <p>キ・2年生で行うジュニアインターンシップ参加人数を20名にする。(H25, 10名)</p> <p>ク・平成26年度入部率を50パーセントにする。(H25, 34.2%)</p>	<p>ア・コミュニケーション委員会は年23回、コミュニケーションコース担当者会議は年5回開催されたが、拡大コミュニケーション委員会は開催できず。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員による取組プレゼンは年2回実施。(○) ・生徒指導力向上研修は未実施。(△) <p>イ・数値が向上したのは18項目に留まる。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションHRを年3回実施。(○) ・プレゼンイベントは実施できず。(△) <p>ウ・プログラムの完成には至っていないが、年2回(人権文化交流発表会、横堤中学校PMHR)、PM部員や演劇部員がPMを紹介。(△)</p> <p>エ・教職員PM研修を2月5日に実施。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員PM講習会を7, 8月に3日実施。(○) <p>オ・「コースで学んで話し方や行動が変わった」と答えた生徒は71%。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「PMⅠ」「PMⅡ」ともに本校教員2名で担当。(○) ・メディエーター認定証取得者12名。(◎)(受験者は15名) <p>カ・English Speech Festival 12月17日実施(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・English Day Camp 9月20日実施(○) <p>キ・2年ジュニアインターンシップの参加者は42名(24社)であった。生徒の職業意識がかなり高まった。(◎)</p> <p>ク・入部率31.7%(△)</p>
3 地域連携の推進	<p>(1) 地域連携を通して生徒の成長を促す。</p> <p>ア 地域活動に参加する。</p> <p>イ 地域の人々を学校に招聘する。</p> <p>(2) 広報活動の充実</p> <p>ア HPの充実</p> <p>イ 茨田ニュースの発行を継続する。</p> <p>ウ 学校説明会の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア 地域活動への参加回数を増加させる。(H25年度12回)</p> <p>イ・体育祭や文化祭、「いこいの広場」「地域交流エリヤ」等を利用して地域の人々を学校に招き、交流を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学の部活動を招いて実施する「茨田カップ」の回数を増加させる。(H25年度2回) ・PTA文化教室、PTAスポーツ教室に地域の方の参加枠を設ける。 <p>(2)</p> <p>ア HPを1週間に1回更新する。(現在2週間に1回程度)</p> <p>イ 茨田ニュースの発行回数(年間4回)を維持する。</p> <p>ウ 学校説明会等における来校者人数を25年度の1.2倍にする。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 地域活動への参加回数が13回以上</p> <p>イ・年間1回以上の招聘を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間3回以上の開催。 ・それぞれ年1回実施する。 <p>(2)</p> <p>ア 1週間に1回の更新をする。</p> <p>イ 4回以上の発行</p> <p>ウ 来校者人数を25年度の1.2倍にする。(1000人を超える)</p>	<p>(1)</p> <p>ア 16回に増加(◎)</p> <p>イ・広場、エリヤの整備はできているが招聘はできず(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回で現状維持(△) ・文化教室のみ実施(△) <p>(2)</p> <p>ア 2週間に1回程度の更新に留まる。(△)</p> <p>イ 4回発行(○)</p> <p>ウ 904人(昨年837人)昨年比1.08倍(△)</p>